

富士ひのき材
建

「富士山『桧輝』」普及へ エコ価値高める新ブランド

緑の循環システムが認証を取得



「富士山『桧輝』」の普及を目指す渡辺委員長(右から2人目)ら

地場産の富士ひのきを魅力ある住宅建材として利用促進させるため、富士山木造住宅協会(寺崎幸治会長)は、エコ価値を高めた新ブランド「富士山『桧輝』(ふじさんひのき)」として富士ひのき材を売ることを考えた森林循環型の生産流通システムを構築したことにより、環境にやさしい富士山ろくの木材として消費者に活用を呼びかける意向だ。

「川上から川下まで流れを一体型に…」

(事務局)。これまで森林整備だけを考えて持続可能な森林経営を目指しても生産や流通には直接結びつかず、需要低下が森林荒廃も招いていた。そこで協会は組織内に森林認証委員会(渡辺泰敏委員長)を設け、他業種と連動した一括システムづくりを始めた。この取り組みが結果として今年3月末にSGECA(緑の循環)森林認証を得た。

構築されたシステムは富士山周辺の認証森林(日本製紙株有林)から搬出された認証材の原木を、富士ひのき加工協同組合で製材・加工し、それを県東部

の流れを「川上から川下まで」の流れを「一体型に…」

場を農学できの「き」した住宅に助成金を交付するか否かの検討を今年度中に開始する予定もあり、協会としては行政支援も得ながら、うな啓発行事も繰り広げていく計画だ。

協会では24日、富士市平垣町のホテルグランド富士で会員たちに認証取得の報告とシステムの説明を行い、新ブランドによる住宅消費の活性化に意欲を高めた。富士市内では、今回のシステムを活用した住宅需要がすでに数件出ており、新ブランド建築材を活用した家の建築が5月から早々にスタートする予定という。

また、富士市行政も地場産ひのき材を使用

来月から建築の使用開始

最大の資材業であるマルダイの工場でプレカットし、加算する地元の工務店11社に渡すといつした連携の取り組みが住宅消費につなげていくことが狙いだ。ひのき材を使つてのSGECA認証取得は県内でも初めてといつ。

協会では24日、富士市平垣町のホテルグランド富士で会員たちに認証取得の報告とシステムの説明を行い、新ブランドによる住宅消費の活性化に意欲を高めた。富士市内では、今回のシステムを活用した住宅需要がすでに数件出ており、新ブランド建築材を活用した家の建築が5月から早々にスタートする予定という。

また、富士市行政も地場産ひのき材を使用

場を農学できの「き」した住宅に助成金を交付するか否かの検討を今年度中に開始する予定もあり、協会としては行政支援も得ながら、うな啓発行事も繰り広げていく計画だ。

協会では24日、富士市平垣町のホテルグランド富士で会員たちに認証取得の報告とシステムの説明を行い、新ブランドによる住宅消費の活性化に意欲を高めた。富士市内では、今回のシステムを活用した住宅需要がすでに数件出ており、新ブランド建築材を活用した家の建築が5月から早々にスタートする予定という。

また、富士市行政も地場産ひのき材を使用